

6月を迎えました。5日は二十四節気の芒種、そろそろ田植えのシーズンです。5月中下旬は、湿度が高く、「もう梅雨？」のような頭痛と倦怠感に悩まされましたが、第一週は比較的過ごしやすかったですね。



日本気象協会 HP より

6月といえば、ジメジメした梅雨をイメージされる方が多いですね。「また雨やん」舗装されてない泥だらけの道を、長靴を履き、傘をさして登校した小学校の時の思い出されます。信じられないかも知れませんが、私の通っていた堺市立登美丘東小学校では、番傘があり、子どもたちが自由に使えたんですよ。友だちと「ちゃんばら遊び」に使うので、すぐに破れて先生から大目玉・・・いやあ、懐かしい思い出です。

さて、今月号は、5月31日から三日間、大阪国際会議場で開催された第74回日本東洋医学会学術総会の特集号です。未だ興奮冷めやらぬ感覚で一氣に書きました。

【ニュース】

① 診療日の変更

10日以降の今月の休診の予定はありません

② 第74回日本東洋医学会学術総会 市民公開講座

今回は、関西医大総合医療センター産婦人科・漢方外来の梶本めぐみ先生のご提案で、大阪・北浜に適塾を開き、日本の医学の発展、後進の指導に力を尽くした緒方洪庵(1810-1863)を取り上げ「時空を越える 緒方洪庵」と題して、6月2日(日曜日)14:00～16:00に開催しました。内容は、1 蘭学者・緒方洪庵にみる東洋医学(大阪大学ミュージアム・リンクス 松永和浩先生)、2 緒方洪庵系譜とその後(関西医科大学麻酔科 緒方洪輔先生、3 いま、広がる精神～復興支援酒「緒方洪庵」(前大阪大学人間科学研究所教授 佐藤功先生)の3名の先生方にお話ししていただきました。

〈佐藤先生のお話より〉

2018年7月7日朝、西日本豪雨による水害が愛媛県西予市野村町を襲いました。町の人々は「サシアイ」という独特の飲酒文化を持ち「飲むムラのむら」を自称していました。災害にうちひしがれた人々の心を癒やし、復興の原動力となったのがお酒でした。野村には一軒の老舗酒蔵、宝暦三年(1753)創業の緒方酒造(洪庵先生のご親戚)がありました。緒方酒造も水害で長い歴史に幕を下ろすこととなり、銘酒「緒方洪庵」も失われました。そこで立ち上がったのが大阪大学の教員有志でした。というのも、緒方洪庵が幕末の大坂に開いた適塾は、大阪大学の精神的源流に位置付けられているからです。「緒方洪庵」の存続、「飲むムラのむら」を支援したいとの思いから、銘酒「緒方洪庵」復活プロジェクトが2020年3月地元の協議会・大阪大学・愛媛大学の協力を得て「緒方らぼ」がスタート、銘酒が復活しました。



【こんにちは！フットケア外来です ～6月号～ 看護師・泉谷めぐみ 蔭西訓子】

「足の3点アーチ」という言葉をご存じですか？人間の足の甲や足の裏には、アーチと呼ばれる構造があります。アーチはすねや足裏の筋肉によって支えられており、歩行時や運動時にバネやクッションにもなる重要な部位です。

足を内側から見たときに“土踏まず”と言う地面に接地しない部分がありますが、これを“内側縦アーチ”といいます。



「内側線アーチは、正常足と呼ばれるナチュラルアーチ型のほか、土踏まずが上の方向に急なカーブを描くハイアーチ型、土踏まずが平らになっているフラット型の3タイプに分けられます。

特に注意したいのが、「扁平足」とも呼ばれるフラット型です。扁平足になると、足の痛みや歩行障害などを引き起こす可能性があります。

【ミタクリ漢方 第74回日本東洋医学会学術総会のこと】



5月31日午前、大阪国際会議場は第74回日本東洋医学会学術総会の準備に余念がありませんでした。50名を超える総会準備委員の先生は、それぞれの持ち場で最後の点検をされてました。今回のテーマは「東洋医学を通じた和の構築～病人さんに還る～」でした。コロナ禍で、仙台で予定されていた学術総会は、一年延期してもなおWEB開催でした。その次の札幌で予定さ

れていた学会も、会頭の八重樫先生はギリギリまで「対面開催」を模索されましたが、やはりWEB開催となり、北海道の先生方は残念がっておられました。どうしても、現地で互いに顔を合わせて語り合いたい、私たちはここにこだわりました。幸い、コロナも一時の勢いはなく、多くの先生に大阪にお越しいただくことができました。特別講演、教育講演はもちろん、シンポジウムも質疑応答に十分時間がとれるように工夫を凝らしました。鹿児島島の総会以来10年ぶりに復活した車座講演など、先生方が参加されるかたちの内容も盛り込み、論点がぼやけない熱気あふれるディスカッションが繰り広げられました。また、一步フロアに出ますと、「やあ先生、ひさしぶり！」と笑顔と談笑に包まれる、そんな総会になりました。

具体的には、これまで「何となくわかってるような、よくわからないような、でもよく使っている」補中益気湯（ほちゅうえっきとう）、四物湯（しもつとう）、加味逍遙散（かみしょうようさん）、当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）などの方剤について、一歩進んだ理解を目的とし、討論にじっくり時間をかけることができました。漢方診療技術習得を具体的に示した腹診講座、ビギナーズセミナーやアドバンスセミナーなど、参加された先生方のニーズに出来るだけ添えるように、とにかく迷子（？）が出ないように工夫しました。漢方医学を学びたい先生方すべてに「それなら、このセッションにお越し下さい」をわかりやすく提供するのは難しかったのですが、準備委員の先生方のご努力で多くの先生方が目指す技術と知識の修得に寄与できたのではないかと思います。

数ある珠玉の講演の中で副会頭を務めていただいた二人の先生を紹介します。「車座講演 腹証奇覧・奇覧翼を読み解く」は、座長（峯尚志先生）による、稲葉文礼（師匠）と和久田叔虎（よしとら）（弟子）の物語でした。真面目で知性の高い弟子の叔虎が、無学文盲の酒飲みの文礼を敬愛してやまなかったのかはなぜか？まず腹証奇覧が生まれた時代背景を知り、二人の来歴を語り、文礼と叔虎の二人の腹診図を比べながらその秘密に迫り、腹診を未来へとつなぐ試み、呼吸や姿勢が腹証にどのように影響するのかが語られました。また、西本隆先生による「口訣（くけつ）の過去現在未来」では、情報伝達手段の少なかった古来、文字による記録と共に先人の経験が口訣として伝えられてきた歴史がありますが、未来に向けて我々がなさねばならないことは「文字に残されてこなかった情報」を共有し、評価し、それを次代に伝える事ではないでしょうか、と問いかけます。今回その第一歩として、現在漢方に携わる医師達が、口訣をどのように考え、実践しているかを調査し報告されました。

学術総会には、巽先生はじめ、ミタクリのスタッフの方々にも参加していただきました（写真1）。私の会頭講演では、一人でも多くの方に漢方診療の良さを実感していただきたい、その思いで取り組んできた自分の医師としてのこれまでを振りかえり、お話しさせていただきました。実は、その中で大きな気づきがありました。スライドに登場していただいた、私を厳しくご指導くださった先生方への感謝はもちろんですが、今目の前で私の話を聴いて下さってるスタッフの方々一人一人の顔を見、この方たちのおかげで今日がある！という熱いものがこみ上げてきて、ほんとに頭が下がる思いでした。ひとはひとりでは生きていません。病人さんがいます。家族や友人がいます。職場があります。地域や社会があります。さらに自然の影響からは逃れることはできません。さあ、治療の守備範囲をどこまで拡げて考えますか？（写真2）講演の中の一節ですが、よき師、よき友人たちに守られてここまでこれたんやなあと改めて思いました。

6月2日の閉会式後の集合写真です（写真3）。準備に関わられた先生方お一人お一人に「やりきった」感が満ちあふれています。このあとの打ち上げでは、重い（！）私を先生方が胴上げをしてくださいました。ふわっと宙を舞いながら、何度もこころの中で「ありがとうございました」をくり返してました。同時代に、こんなすてきな仲間と学会を創り上げることができたこと、感謝してもし過ぎることはありません。そして、ミタクリにお越しいただいてる病人さん、患者さんには、学会期間中お休みをいただき、ありがとうございました。この学会で得ることができた様々のことを、これから皆さまにお役立てできますよう、がんばっていきたいと思います。



写真1

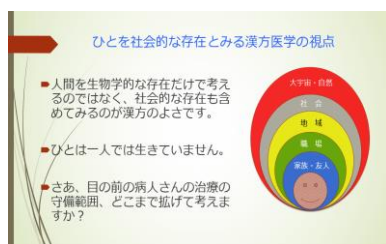


写真2



写真3

ミタクリのコロナをはじめとする各種感染症への対応

ミタクリに来院される皆さん、クリニックの現在の対応について、ご理解よろしくお願いします！

- ① まず、ウイルスを「持ち込まない」ように細心の注意を払い、クリニック内を1時間半おきに消毒し、常時換気をしています。
- ② **予約の日であっても、調子が悪い場合は、まずお電話（072-260-1601）でご相談ください。**すぐに来ていただくか、時間をずらしていただくかを、その時点でご案内します。これまでは、コロナはじめ感染症の疑いのある方の場合、予約診療の方と時間・場所を分けて診察していましたが、柔軟に対応いたします。
- ③ **待ち時間の短縮に、引き続き尽力しています。**私たちにお聞きになりたいことは、質問事項（今回はどんなお薬が必要か、こういった体調の変化があったか、など）や残薬など、あらかじめメモして持参いただけたら助かります。
- ④ お困りのことがあれば、きちんとお聞きして関係各所におつなぎしますので、ご遠慮なくご相談ください。「仕事がなくなってお金が入らない」「家賃や公共料金の支払いに困っている」などです。
- ⑤ ミタクリでは、**オンライン診療**（テレビ）を行っています。利用する際には、機器使用料など、いくつかの条件があります。詳細は、どうぞおたずねください。なお、**電話のオンライン診療は終了しました。**

【外来担当医一覧 2024年6月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午 前 (9:00-11:00)	異	異 三 谷 (オンライン可)	異 (訪問診療) 三 谷 (オンライン可)	異	異 三 谷	三 谷 (オンライン可)
午 後 (14:00-16:00)	異 (オンライン可)	異 (訪問診療)	異 (予約) (オンライン可) 三谷 (訪問診療)	異 (訪問診療)		
夜 診 (16:30-18:30)		三 谷 (オンライン可)	三 谷		三 谷 (オンライン可)	